

変わるべき時代

岡山県教育委員会委員

松 田 欣 也



「人と別れるときに手を振るのはなぜ？」
「乾杯のカチンはどうしてするの？」―素朴な質問をぶつけては、答えられないと「五歳の女の子」チコちゃんに「ポーっと生きてんじゃねーよ！」と叱られる。NHKのクイズ番組「チコちゃんに叱られる！」がおもしろい。扱うテーマは、日常の中にあるものが多い。扱うテーマは、日常の中にあるものが多い。食文化・歴史・医学・科学・生物学・心理学など多岐にわたる。「常識」や「当たり前」を疑うことが学びの基本だと思う。与えられた問いにいい答えを見つけないことが重視される時代に、「問いを立てる」大切さにも気付かされる。

少子高齢化、グローバル化や情報化の進展など、日進月歩で変化し続ける今日の社会では、幅広い知識と柔軟な思考力に基づいて、知識を活用して何かを生み出す創造力、批判的思考力、コミュニケーション能力、価値観の異なる他者と協働して課題解決を行う能力が求められる。

社会人になればこそ、課題を発見するための「なぜ」を大切にし、「なぜ」を増やす。課題を解決するためには仮説を立てて実践す

る。「なぜ」うまくいったか「なぜ」うまくいかなかったかを検証する癖をつける。ただ分析して終わるのでなく、分析結果をもとに次に何がしたいか企画するデザイン力や提案力が必要だ。最近、若い人を見ていて気がかりなことがある。失敗への準備ができていないためか、やり抜く力の醸成ができていないように感じている。失敗から学ぶ思考プロセスを重視した教育の実践が欠かせなくなつたのではないだろうか。

変化の激しい時代を生き抜くには、「ポーっと生きるんじゃなく」、常に意欲的に「学び続ける」しかないだろう。私は、世の中がドラスティックに変わる時代に生まれたことに感謝している。

誰もが何かにぶつかり、迷い、挑戦し、失敗し、ということを繰り返してきた。そうやって自分で育ててきた感覚が「自信」となることを、自身のキャリアステージの中で体感してほしい。学ぶことを忘れず、今年一年も常に前を向いて「生きる喜び」が感じられる日々を送りたいものだ。